

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

324号

2018年2月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

2018年南北和解への道

韓国の平昌(ピョンチャン)で第23回冬季オリンピック(2月9日～2月25日)、第12回パラリンピック(3月9日～3月18日)が、いよいよ開催される。1988年のソウルオリンピックから30年ぶりのオリンピックとなる。参加国は過去最大の90カ国を超え、種目も過去最高の102種目となった。参加選手の人数はまだ明確ではないが、前回のソチオリンピックの2873名を超えても受け入れられる準備を韓国側はしている。

一方、参加を巡ってはロシアがドーピング問題で個人参加になったことは残念であるが、北朝鮮のオリンピックへの参加が正式に決定したことにより、融和ムードが作り出されたことは歓迎すべきだ。

今回、北朝鮮からは3競技・4種目に22名の

選手と230名の応援団の参加が決まった。女子アイスホッケーではオリンピック史上初となる南北統一チームで参加することも決まった。しかし、その陰でオリンピックに出場機会が少なくなる選手が出てくるのは心が痛む。この問題を民族の力で乗り越えてほしい。

2017年は、北朝鮮のミサイル・核開発実験に揺れ、米国本土に核ミサイルが飛来するかもしれないという現実が日増しに高まる中、国連を中心に北朝鮮に対する様々な制裁が強化された。特に安倍首相は、北朝鮮への制裁圧力の先鋒隊長を務めるなど、トランプ大統領以上に北朝鮮への制裁と圧力に並々ならぬ執念を燃やしている。戦争を前提とした安倍政権の軍備増強、憲法改正、世論操作などは取り返しのつかない事態を招くかもしれない。事実、日本では北朝鮮のオリンピック

参加に対し「北朝鮮の言いなりの韓国、主導権は北朝鮮」「北朝鮮に翻弄される文政権」「文政権はオリンピックを政治利用すべきでない」など、否定的な論調が連日報道されているのは非常に残念なことだ。

戦争か対話かの2者択一ならば、誰もが戦争を望まないだろう。今一度、全ての人達が何故このような危機的な朝米関係に至ったのか冷静に考え、対話・外交による解決方法を探るべきだ。

平和の祭典である平昌冬季オリンピックへの北朝鮮の参加は大きな意味を持っている。李明博(イ・ミョンバク)・朴槿恵(パク・クネ)政権で止まっていた南北対話と交流が、平昌オリンピックを通して実現した。これが南北関係改善の第一歩となることは間違いない。

南北の選手が統一旗を手に、シドニーオリ

ピックの時のように、民族が一つになり合同入場することの意味は大きい。南北が平昌オリンピックを通して信頼関係と対話が進めば、北朝鮮を取り巻く状況を好転させることができる。「平和の祭典であるオリンピックを政治利用すべきではない」という声もあるが、平和のための関係改善に繋がるのであれば最高の舞台でもある。そのためにはまず、オリンピック期間中は韓半島周辺での全ての軍事的行動を中止し、オリンピック精神をもって最高の大会になることを願っている。

そして2018年は、民族の和解と信頼関係を取り戻す年、南北に横たわっている諸問題の一つ一つを共に解決していける関係を作る年、未来の子どもたちが安全で安心して暮らせる社会、希望の持てる社会を作っていくための元年にしなければならない(寿)。



▲“平昌から平和へ”と呼びかける韓国の青年学生

【特別企画】 南北そろって参加する平昌オリンピックへの期待

平昌オリンピック及びパラリンピックに南北双方が出場して、開幕式で合同入場が決まるなどオリンピックの雰囲気が高まっています。今号の自主(チヂュ)では、平昌オリンピックへの期待と題して、在日同胞・日本の方にインタビューを行いましたので掲載します。

北側から派遣された選手団が、南側選手団と一緒に合同行進することを強く望みます。

C・Yさん(20代・同胞男性)

ようやく実現したという感じです。長く続いた保守政権の時は全然できなかったけど、政権が代われれば、これだけ変わるんだとすごく身に染みて実感しました。南北が力を合わせたら強い国になると思います。同時にスポーツもお互い力を合わせたら、すごく、いい成績を残せると思います。今回の平昌オリンピックで南北が力を合わせ、世界にアッと驚くような実力を見せたいと思います。R・Sさん(20代・同胞男性)



▲平昌オリンピックに出場する
女子アイスホッケー南北統一チーム

今回、ニュースで南北合同チーム、合同応援団ということを知り、すごく胸が高鳴りました。2004年のアテネオリンピックの姿がすごく印象に残っていて、それから18年間いろんな事があって、また再び平昌オリンピックで南北が共に出場することになり、よい方向に進んでいると思うので、ここから後退することはなく、もっともっと南北がより近づく契機になったらいいなと思います。平昌オリンピック、すごく期待しています。

K・Eさん(30代・同胞女性)

去年まで南北関係が冷え込んでいたところを、平昌オリンピックをきっかけにして、これからどんどん良くなっていくのかなと思います。南北は朝米関係とは別に南北関係を主体的にやっていく方向に進んでくれればいかなと思います。オリンピックはけっこううまくいくだろうと予想しています。P・Kさん(20代・同胞男性)

平和の祭典ということですから、オリンピックには南北が共に平和の大きな一歩を踏みだせるきっかけになればいいなと思います。期待しています。S・Kさん(50代・同胞男性)

韓国で文在寅政権が誕生したので、北朝鮮が融和を進めていかななくてはと考え、参加を表明したと思っています。平和的に、もっと南北和解をど

んどんやってもらえれば、在日も安心して生活していけるのではないかと。

K・Cさん(60代・同胞男性)

年末、なかなか南北の交流がないということでヤキモキしましたが、金正恩委員長の新年辞が

あって、それに対する文在寅大統領の対応が非常に早くて安心しました。昨年、具体的に動かなかった南北交流が、年が明けてオリンピックを契機に一挙に進んで非常に喜ばしいと思いました。

これを契機にして南北の交流が進み、米国もこの動きに対しては何もできないと思うんですけども、このすう勢をますます強めていくためには、自分自身も日本国内で朝鮮の平和統一、東アジアの平和を目指していきたいと思っています。

N・Sさん(60代・日本人男性)



▲平昌オリンピック、パラリンピックの
マスコット「スホラン」と「バンドビ」

2018年、情勢の好転を活かし、 団結して運動を推進しよう！

韓統連・韓青大阪本部・支部 常任委員合同新年会

2018年を迎え「韓統連・韓青大阪本部支部常任委員合同新年会」が1月6日（土）、京愛館（大阪市生野区）で開かれた。



▲和やかな雰囲気の中、進行した合同新年会

合同新年会では、金隆司（キム・ユンサ）韓統連大阪本部代表委員が乾杯挨拶を行い「昨年の大きな成果は韓国民衆と連帯して大阪でキャンドルデモを行い、その結果、朴槿恵を退陣させて、文在寅政権が誕生したこと」と述べるとともに、「一方、トランプ政権によって朝鮮半島の軍事緊張はいつになく高まったが、新年に入り、平昌オリンピックを機に南北が和解の方に進もうとしている。この情勢を活かしながら、2018年も頑張っていこう」と語った。

その後は食事を交えながら、本部・支部常任委員同士が親睦と交流を深め、参加者全員から今年の抱負が語られ、2018年も力を合わせて運動を推進していくことを確認した。

特製のトックを食べながら、 今年の抱負を語り合う 韓統連生野支部新年会

1月15日（月）、韓統連生野支部主催の「2018年度新年会」が多くの会員などが参加する中、開催された。

冒頭、金昌範（キム・チャンボム）韓統連生野支部代表委員が主催者挨拶を行い「昨年はキャンドルの力で誕生した文在寅政権が、残存保守勢力の抵抗

と米国の圧力を受けながら、葛藤の中で国民の要求を聞いてきたが、まだまだ不十分と言わざるを得ない。文政権に何かを期待するのではなく、我々自身が何を要求し、実現していくのかが問われている」と述べ、「私たち生野支部は一人一人が学習し、情勢に対する認識を共有しながら、地域拠点として更に発展していこう」と語った。



▲主催者挨拶を行う金昌範生野支部代表委員

新年会では、「ここ生野支部に来ればためになる」をモットーに「ためになる〇×クイズ」が行われ、韓国での選挙投票権年齢が以前は20歳だったが、現在は19歳であることや、済州島と沖縄本島のどちらの面積が大きいか？生野支部が結成22周年を迎えること、平昌オリンピックのキャラクターマスコットがスホラン（守護、ホランイ、アリラン）であること、またパラリンピックの語源などを共有した。

食事は特製のトックが振る舞われ、歓談の中で参加者間の親睦と交流が行われた。最後に参加者各自から今年度の抱負が語られ「韓国語の学習をもっと進めたい」「様々な本を一冊でも多く読みたい」「今年はいろんな意味でチャレンジの年にしたい」などが語られ、新年会は終了した。

多くの青年学生を集め、 2018年を飛躍の年に！ 韓青・学生協合同新年会

韓青関西地方協議会と学生協の共催による「2018年新年会」が1月14日（日）、KOKOカフェ（大阪市東淀川区）で開かれた。

新年会では、最初に崔孝行（チェ・ヒョハン）韓統連兵庫本部代表委員が乾杯挨拶を通じ「新年早々大

きな情勢転換がありました。9日の南北閣僚級会談で北朝鮮が平昌オリンピックに参加することなどに合意しました」と述べ、「南北双方が平昌オリンピックに参加することになり、オリンピックの雰囲気は高まるでしょう。私たちも日本の地で平昌オリンピックへの雰囲気を盛り上げ、南北の和解・協力の情勢を多くの在日同胞に伝えましょう」と語った。

新年会では、参加者間の親睦と交流が深められるとともに、各テーブル対抗のジェスチャーゲー

ムが行われ、大いに雰囲気盛り上がった。

また新年会では、1月9日に開かれた南北高位級会談の動画が映し出された後、金承民(キム・スンミン)韓青中央本部委員長が「韓青では歴史的な平昌オリンピックに代表団の派遣を検討しています。皆さんぜひ一緒に行きましょう」と挨拶を行った。

その後、金隆司 韓統連大阪本部代表委員の激励辞、韓青各地方本部・学生協の活動紹介が行われ、最後に李俊一(イ・チュニル)韓青大阪府本部委員長が閉会挨拶を述べ、新年会は終了した。

〈次代を担う若者たち〉 — 韓青大阪本部 活動紹介 —

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュニル)です。とても寒い日が続きますが、皆さまお元気でしょうか？

2018年に入り南北高位級会談が実現し、2月の平昌オリンピックの北朝鮮の参加も決定するなど、私たちも新年をととても良い雰囲気で迎えることができました。

1月14日には、韓青関西地協と学生協で合同新年会を開催。韓青大阪本部から新しいメンバーが参加し、和気あいあいと進行することができました。ゲーム大会などで盛り上がる中、直前に開催された南北高位級会談の映像を急ぎよ上映。その場で韓青の平昌オリンピックへの参加も発表され「統一オリンピックを民族の力を合わせて成功させよう」と決意を共有しました。

2月には平昌オリンピックが開催され、開幕式での南北合同入場や、女子アイスホッケーの統一チーム結成など、統一機運を高める画期的な取り組みが多くなされます。私たち韓青では学生協の仲間たちとともに平昌オリンピックに参加し、統一機運を高めていこうと準備していますので、今後のご声援よろしくお願い致します。



▲新年会での記念写真

連帯の夕べ

日時：2月11日(月) 午後5時 受付 午後5時30分 開会

場所：KCC会館5階ホール(地下鉄今里駅下車徒歩10分)

内容：第1部 記念講演 講師：孫亨根(ソン・ヒョングン)韓統連中央本部議長
第2部 懇親会

参加費：3000円

主催：韓統連大阪本部 TEL 06-6711-6377



【コラム】

雪を喜ぶ

金晋燮(キム・ジンソプ)の随筆『白雪賦』の冒頭は「言うも愚かながら、都会人で雨を嫌う人は多いかもしれないが、雪を嫌う人はおそらく殆どないだろう」の一文からはじまる。近代の都会人らしい所感で、純潔なる雪が、俗にまみれた都会を文明の殻から脱せしめると、雪の白く積もる様を礼賛している。

古来、雪を題にとった詩賦は多い。我が国の文人達は雪を美しい冬の風物として詩題とし、とりわけ初雪は冬の到来を告げる重要なものと考えていたようだ。高麗の文人である鄭知常(チョン・ジサソ)が初雪を迎えた翌朝の宮廷の風景を描いた詩がある。

「昨夜紛紛瑞雪新(昨夜、とめどなく舞い降りた瑞雪は新しく)

曉來鳩鷺賀中宸(夜明けと共に百官は宮闕で祝賀を申し上げる)

輕風不動陰雪卷(あたりにはそよ風も吹かなかったのに陰鬱な雪雲が散り去って)

白玉花開萬樹春(光を浴びた木立は白玉の花が咲いて全ての木に春が来たように見える)」。

この詩に述べられているように、高麗～朝鮮時代には百官が初雪を祝う「新雪賀礼」という行事があった。『高麗史』「礼志」によれば、暦の小雪から大雪の間に雪が降ると、その三日後に宰臣以下の官僚が集まり国王に祝賀を述べたという。

当時の初雪についてこんな話もある。朝鮮時代、世宗(セジョン)が即位した年のことだ。

「上王(太宗・テジョン)が初雪を封じて菓と称し、内臣の崔游を遣わして老上王(定宗・チョンジョソ)に贈るいたずらをした。老上王はこれを先に知り、崔游を捕まえようとしたが出来なかった。高麗の習慣では、初雪を封じて贈りあい、受け取った者は宴を設けなければならなかった。しかし、もしそれを先に知って使者を捕まえれば、贈った者が宴を設けなければならない。そうしてお互い

の戯れごととした」。

当時、初雪を通じてお互いを騙し合う遊びがあったらしい。退位後の定宗と太宗の仲が伺えるが、この時、定宗62歳、太宗52歳。いい歳してやや大人げない気もする。とまれ、当時の人々が初雪を喜ぶ心を持っていたことが分かる逸話だ。

しかしながら、雪は美しくも厳しいもの。太宗にはこんな話も残る。狩猟に出かけた太宗が雪嵐に見舞われて早目に切り上げて帰ってきたところ、宮殿の礼官が「初雪が降ったので新雪賀礼を行いましょう」と進言した。太宗は「嫌だ。何言ってるんだ。この雪が瑞祥と思えるのか?」と返した。この年は結局、新雪賀礼は行われなかったようだ。

雪は翌年の豊作を示す美しい瑞祥でありながら、冬の恐ろしい厳寒を現す二面性を持っている。歴史に記された「雪」は災害であることが多い。そのせいか新雪賀礼は世宗代に廃止されてしまった。

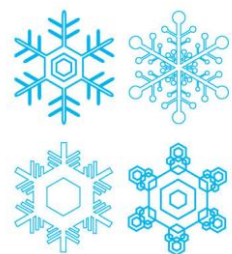
「あんなおそろしいみだれたそらから、このうつくしい雪がきたのだ」(宮沢賢治「永訣の朝」)。雪を愛おしく思うのは、人の力の及ばない天からの賜物だからかもしれない。古人もまた同じ感慨を以て雪を眺めたのだろうか。今年の雪が祝賀に包まれることを祈る。(好)



▲冬の景福宮



pixta.jp - 7617842



◆◆韓国ドラマ紹介◆◆

月桂樹洋服店の紳士たち

久々のドラマ紹介。昨年3回続いたお店紹介は少しお休みに入ります。

今回紹介するドラマは、4人の男性が繰り広げるドタバタ劇であり、ホームドラマでもあります「月桂樹洋服店の紳士たち」。ドラマはソウルで100年続くオーダーメイド洋服店「月桂樹洋服店」を舞台に、オーダーメイドスーツに係る人たちの物語です。

店主のマンスルは高齢で目を患い、長男のドンジンにお店を継いでほしいと考えていますが、有名ファッション企業で働くドンジンは店を継ぐ気は全くなく、企業の代表理事になることで頭がいっぱいです。そんなある日、店主のマンスルが家出をして、洋服店は存続の危機に陥ってしまいます。店を閉めるべきか、自分が継ぐか困り果てるドンジン。ドンジンの周りにはマンスルの一番弟子だったサムド、落ちぶれた歌手テピョン、就活生のテヤンが関わりをもち、



物語は進んでいきます。

物語が進む中、生涯工場の労働者として働き、月桂樹洋服店のスーツを着るのが憧れだった男性が、年をとり病に倒れ「死ぬときには立派なスーツを着たい」とマンスルに頼み、マンスルがスーツを作る場面は涙、涙です。その他にもスーツを着る人々の想いなどが描かれています。

少々残念なのは全54話と長いこと。途中で早送りしたくなる場所があることでしょうか？それ以外は笑いあり、涙あり、感動する良質のドラマです。

話題は変わりますが、昨年韓国で光州民衆抗争を題材にして大ヒットした映画「タクシー運転手」。大阪では4月21日から「シネマート心齋橋」で上映されます。また今、韓国では朴鍾哲(パク・ジョン Chol)氏拷問殺人事件と6月民主抗争を題材にした映画「1987」がヒット中。両方もぜひ見たいですね。(ソン)

◆◆行事案内◆◆

<p>韓統連生野支部連続学習会 シリーズ近現代史の断面① 近代朝鮮から見た列強と日本、日本から見た朝鮮 日時：2月18日(日) 午前11時～ 場所：韓統連生野支部 大阪市生野区勝山南4-1-13 参加費：会員300円・一般500円 問合せ：090-4495-3863(金)</p>	<p>南北対話を積極的に支持し、 米朝対話・平和協定の実現を求める2・23集会(仮) 日時：2月23日(金) 午後6時30分～ 場所：エルおおさか 京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分 内容：韓忠穆(ハン・チュンモク) 反戦平和国民行動代表の講演 他 資料代：800円 主催：同実行委員会 問合せ：06-6583-5549(全日建連帯労組)</p>
--	--

編集後記

2月は何ととっても平昌オリンピック。南北の選手たちの活躍に期待します。私たちの代表団も平昌に行って南北両選手を応援します。次号で報告記事を掲載したいと思います。お楽しみに。(ソン)